

研究タイトル：

学際的空間論：文学的境界性（リミナリティ）から没入型 VR 教育への展開

氏名： タケ デイビッド / TAQUET David **E-mail：** dtaquet@hakodate-ct.ac.jp

職名： 准教授 **学位：** 修士（文学）

所属学会・協会：
キーワード： 比較文学、ICT 教育、VR

**技術相談
提供可能技術：**

- ・多言語的アプローチ
- ・VR および XR 技術の活用・実装スキル
- ・学際的視点（文学、メディア、VR の融合）


研究内容：
1. 人間の境界の揺らぎ：動物性、混淆性（ハイブリディティ）、そして神性

比較文学における私の研究は、現代の幻想文学、ホラー、思弁的フィクションがいかにして人間の境界を揺るがし、混淆性を生み出しているかを考察するものです。アメリカ（スティーヴン・キング）、イギリス（ニール・ゲイマン）、日本（村上春樹）の文学の異文化間比較を通じて、本研究は動物性から神性へと至る理論的展開を描き出します。物理的および存在論的な変容を検証することで、怪物、動物、超自然的な存在との遭遇が、アイデンティティや現実といった、固定化されていると思われがちなカテゴリーの不安定さをどのように露呈させるのかを問いかけます。また、本研究は、著者たちを隔てる時代や文化を繋ぐため、他の様々な文学ジャンルやメディア（ヤングアダルト文学、ゴシックなど）のテーマやダイナミクスも活用しています。

2. 空間パラダイムとしての境界性（リミナリティ）と廃墟

対象となる存在そのものから、それらが棲まう環境へと視点を移し、幽霊屋敷、迷宮、境界（閾）といった、動的で境界的な空間（リミナル・スペース）の探求も行っています。私の主な焦点は、「廃墟」を単なる衰退の象徴としてではなく、物質的な現実から境界的な状態へ、そして最終的には存在論的な状態へと移行し得る空間構造として概念化することにあります。これらの空間パラダイムは、異なる文学的伝統が時間、歴史、そして超自然的なものへのアプローチをどのように調整（ネゴシエート）しているかを明らかにします。

3. Virtual Ryugaku（仮想留学）と応用空間論

空間性や境界の交渉に関するこの理論的な焦点は、実証的な教育研究と技術実装を通じて実践的に応用されています。物理的な海外渡航が制限される EFL（外国語としての英語）環境において、「Virtual Ryugaku」プロジェクトは VR 技術を活用し、没入型の仮想国際体験を提供しています。提携機関との協働を通じて、この取り組みは異文化学習と没入型環境を融合させ、学生が物理的現実と仮想現実の境界をどのようにナビゲートするかを探求しています。

4. 学際的統合と今後の展望

文学理論と実践的な教育工学の交差点に位置するこの一貫した研究アイデンティティは、人間が異なる形態の存在や空間を横断して、どのように境界を構築し、経験し、交渉していくのかを探究するものです。科研費助成を受けたプロジェクト運営の成功に裏打ちされたこの方法論は、身体性や空間性といった抽象的なパラダイムを、テクノロジーを介した具体的な教育フレームワークへと変換します。

提供可能な設備・機器：
名称・型番（メーカー）

Meta Quest VR 機種（Quest 2, Quest 3, Quest pro）